令和８年度　学舎通信　　令和８年１０月１５日発行

For your SHOTO Vol.14

公益財団法人 佐賀育英会 松濤学舎

松濤学舎HP

文責　舎監　下村昌弘

新聞はオワコンか　－活字を追うことの意味－

正誤ない交ぜの偽の情報があふれて、多くの人が何を頼りに判断して生きていくべきか、戸惑っている。そういう時私は「信頼できる情報の最後のとりでだから」と新聞を読むことを強く勧める。

先日、朝日新聞の投稿欄に98歳の経済学者・評論家、暉峻淑子（てるおかいつこ）さんの文章が掲載されていました。埼玉大学名誉教授であり、『豊かさとは何か』（岩波新書）の著者として知られる方です。教師になりたての頃、試験問題に活用できないかと、同書をはじめ氏の著作を読み漁ったことを懐かしく思い出しました。


新聞 民主社会の「食べ物」だから

令和８年９月17日付朝日新聞

投書の中で氏は、「新聞は民主主義社会に必須の『食べ物』だ」と述べ、「新聞バンク」の設置を提案されていました。団地やアパートの一角などに数日遅れの新聞を置き、自由に持ち帰って読んでもらう仕組みです。なるほどいいアイデアだと思いました。

そういえば、東京佐賀県人会の会議メンバーのお一人に、県人会事務局で購読している不要になった過去の佐賀新聞を毎回まとめて持ち帰る方がいらっしゃいます。「ふるさとの様子が分かるし、地方紙には独特の温もりがある」と話されていました。確かに地方紙のみならず、新聞にはネットにはない魅力があります。

若い世代の情報源は今やネットが中心です。その流れをもはや止めることはできません。しかし、偽情報や誤情報があふれる時代だからこそ、取材と編集のフィルターを経た新聞や雑誌の価値を改めて見直す必要があると思います。

書籍も同様です。校正や編集の過程を経ているからこそ信頼性が高い。またその人の本棚を見れば関心や価値観を垣間見ることもできます。先日ニュースで、好きな本を3冊挙げてそのマッチングで交流する取組を見ました。「好きな本」が同じだと相性が合いやすいという発想に大いに納得しました。

松濤学舎には日経、朝日、佐賀の3紙に加え、朝日ウィークリー、東洋経済、ニュートンがそろっています。鍋島文庫にも新旧さまざまな本が収蔵されており、他県人寮と比べても恵まれた文字環境にあります。さらに現理事長は新聞社に勤務されています。ここにいる皆さんは報道の意義や活字文化の価値について学ぶことのできる貴重な環境の中にいるのだと言えます。

読書の秋。活字を追いながら、情報との向き合い方について改めて考えてみてください。

就職人気ランキングを見るということ　－労働市場を知る－

2027年春に卒業予定の大学４年生の多くは、すでに内定を得ています。しかし内定後も、「本当にこの会社でよかったのか」と悩む人は少なくないでしょう。それでも、そこに至るまでには多くの逡巡があり、自分なりに考え、判断を重ねてきたはずです。その過程には、その人の価値観や生き方が表れます。

私が高校生を指導していた頃、「どんな業種に就職すべきか」と尋ねられることが時々ありました。しかし、仕事の内容を重視するのか、将来性を求めるのか等が定まらない段階で答えるのは簡単ではありません。そこで私は、企業の知名度や規模を重視するなら、就職人気ランキングや売

※HPに「寮生活のひとコマ」と「舎監室の窓から」を随時更新掲載しています。（上記QRコードからぜひ覗いてみてください。）

上高を参考にしてよいと伝えていました。労働市場の動向を知る大切な材料になるからです。

一方就活を経験した学生の皆さんは「その会社で何をしたいのか」をそれこそ必死で考え、社会や経済との関わり方を模索したことでしょう。そうして自分なりの仕事観・勤労観を築いたのだと思います。それこそが大人への第一歩と言えるでしょう。



ところで私には持論があります。「何かを選ぶには、その理屈（理由）は何とおりもあり、それぞれの選択肢にはそれぞれの理屈が成り立つ。しかし最後にどの選択肢を選ぶかは、その人の感性や生き方による」というものです。

http://hiroshitasaka.jp/profile/

田坂広志氏の『直観は過たない。過つのは判断である』という言葉が私は好きです。

横井さんと小野田さん　ー漱石の名言に着地するー

1972年、グアム島で発見された横井庄一さんは終戦を知らぬまま28年間ジャングルで生き抜いた元日本兵です。その生還の記憶を伝えてきた名古屋市の横井記念館は管理者がおらず、やがて取り壊されるといいます。（右新聞）またひとつ戦争遺構が失われようとしています。



グアム島潜伏28年 元日本兵・横井庄一さん

生還の記憶 伝え続けた記念館

土地売れれば取り壊しへ

私はこの夏、かめやまえいこさんの絵本『よこいしょういちさん』（下参照 KTC 中央出版）を読み、奇遇にも防衛省の市ヶ谷記念館で横井さんと小野田寛郎さんについての話を聞きました。

令和８年 10 月７日付朝日新聞



終戦後 29 年間任務を遂行した小野田さんは「命令解除まで戦争は終わらない」と毅然と考え、横井さんは「なぜ自分だけ生き残ったのか」と自問し悩み続けました。同じ元兵士でも、その歩みと戦争観は大きく異なります。ぜひ詳しく調べてみてください。

戦争とは国家同士の出来事である前に、一人一人の人間の物語です。だからこそ、その記憶を伝える場所が失われることに胸が痛みます。

夏目漱石は武者小路実篤に「気に入らない事、癪に障る事、憤慨すべき事は塵芥の如く沢山あります。それを清める事は人間の力では出来ません。それと戦うよりもそれをゆるす事の方が人間として立派なものならば、出来るだけそちらの方の修養をお互いにしたいと思います」と書きました。

過去を学び、人を憎むより理解しようと努めることこそ、今の私たちには必要だと思います。

月	日	曜	行事等
10	25	日	前原町連合大運動会・英会話教室
11	1	日	英会話教室（以降の11月の日程は調整中）
11	6	金	フットサル（テニスコート貸出）
11	8	日	防災訓練12～13時・秋のバーベキュー大会
11	11	水	佐賀県人事委員会11時来舎
11	12	木	★舎内講演会（藤野直明氏）20時～21時・自治会総会
11	13	金	フットサル（テニスコート貸出）
12	6	日	舎友会総会＠松濤学舎
12	10	木	企業説明会（サガテレビ）・自治会総会

・まもなく、後期面談を実施します。前期同様、希望日を指定し、面談の前日までに面談シートをメールで提出してください。

・前回の総会で「仁義を切る」ことの意味をお話ししましたが、日常生活に落とし込めていますか？



【武蔵野の風】今、オンラインだが、ある国家資格取得のために毎週日曜日にスクーリングを受けている。１日８時間の苦行。結構しんどい。▼本当は対面がよかったが移動の時間がもったいないし、こっそり勉強できそうだったのでオンラインを選んだ。今の学生さんはオンライン授業には慣れているのだろうがロール（老頭）はまだ慣れない。▼２０人くらいのクラスで受講者は２０代から６０台まで。講義は少な目で講師からの問いに応えることとグループでの演習が多い。だから時間を持て余すことはないが終われば毎回ぐったりだ。宿題もたっぷり。▼東京に来て読書会や句会にも参加するようになった。いくつになっても学ぶことには喜びがある。こちらは成果が厳しく求められるものではないから楽しさの方が上回る。マラソンもそう。人との競争ではなく自分との戦いだからおもしろい。▼冒頭のスクーリングも自分で決めたこととはいえ、結果が求められるだけに荷が重い。学生生活は大変ですね。そんな皆に感心している。（弓口）

※HP に「寮生活のひとコマ」と「舎監室の窓から」を随時更新掲載しています。（上記 QR コードからぜひ覗いてみてください。）